

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第2部門第4区分

【発行日】平成24年1月26日(2012.1.26)

【公表番号】特表2009-519151(P2009-519151A)

【公表日】平成21年5月14日(2009.5.14)

【年通号数】公開・登録公報2009-019

【出願番号】特願2008-545664(P2008-545664)

【国際特許分類】

B 2 9 C 33/40 (2006.01)

G 0 2 C 7/04 (2006.01)

B 2 9 C 39/26 (2006.01)

B 2 9 L 11/00 (2006.01)

【F I】

B 2 9 C 33/40

G 0 2 C 7/04

B 2 9 C 39/26

B 2 9 L 11:00

【誤訳訂正書】

【提出日】平成23年12月5日(2011.12.5)

【誤訳訂正1】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0 0 0 5

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0 0 0 5】

図3、図3a、および図5aを参照すると、前半型102は、凹面110から概ね平行に離隔した凸面113、および実質的に单一平面上にある環状フランジ106を備えて示されている。フランジ106は、ガイド壁125と一体であり、面110および113から径方向外側に、凹面110の対称軸に対して垂直なわち直角をなす面として延びている。前半型円錐シーム112は肩114と連続しており、その肩の面はガイド壁125と連続している。凹面110は、型内で成型されることになる膨張前のレンズ(unswelded lens)のフロントカーブの寸法を有し、形成されるコンタクトレンズ表面が光学的に許容される品質となるように十分に平滑である。凸面113は、光学的良品質の面を形成するのに適した面を有する必要はない。

【誤訳訂正2】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0 0 0 6

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0 0 0 6】

図4、図4a、および図5aに示されているように、後半型103は、離隔した表面109および115、ならびに実質的に单一平面の環状フランジ105を備えており、この環状フランジ105は、表面109および115から径方向外側に、凸面109の軸に対して垂直な平面として延びている。後半型103は、光学的良品質の凸面109および概ね平行な凹面115を備えた中央湾曲部分を画定している。凸面109は、成型されることになるレンズの膨張前のバックカーブの寸法を有し、形成されるコンタクトレンズ面が光学的に許容される品質となるように十分に平滑である。後半型103の凹面115は、光学的良品質の面を形成するのに適した面を有する必要はない。後半型円錐シーム117

は、肩 118 と連続している。外側に向かってテープ状のガイド壁 119 は、肩 118 と連続しており、この肩 118 から上側に延びている。フランジ 105 は、ガイド壁 119 と連続しており、面 115 および 109 から径方向外側に延びている。本発明の半型の一方または両方は、米国特許第 5,540,410 号に示されているように、型タブを含むように構成することができる。

【誤訳訂正 3】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0008

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0008】

図 5 a に示されているように、前半型円錐シーム 112 が、円形縁 111 と連続して、この円形縁 111 から肩 114 に向かって上方に湾曲して延びている。円錐シーム 112 は、円形縁 111 から上方に湾曲して、凹面 110 の対称軸に対して垂直な、つまり直角を成す平面に対して上方に約 75 度～約 85 度の角度をなして延びている。肩 114 は、円錐シーム 112 と連続しており、この円錐シーム 112 から径方向外側に延びている。ガイド壁 125 が、肩 114 から上方に延びている。ガイド壁 125 は、凹面 110 の対称軸に対して垂直な、つまり直角を成す平面に対して上方に約 45 度～約 89 度の角度で肩 114 から延びている。

【誤訳訂正 4】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0009

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0009】

また、図 5 a に示されているように、後半型 103 は、凸面 109 の対称軸に対して垂直な、つまり直角を成す平面に対して上方に約 75 度～約 85 度の角度で、円周縁 120 から上方に延びた後半型円錐シーム 117 を有する。本発明の型の全ての実施形態では、前半型の円錐シームと後半型の円錐シームは、これらの面が互いに確実に適合して半型同士の横ずれを最小限にするまたは防止するように、相補的な形状を有する。肩 118 は、円錐シーム 117 と連続しており、この円錐シーム 117 から径方向外側に延びている。後半型のガイド壁 119 は、約 45 度～約 89 度の角度で肩 118 から上方に延びている。

【誤訳訂正 5】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0013

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0013】

図 6 a、図 6 b、および図 6 c では、前半型に対し後半型が大きいことによって半型同士のインターロッキングが促進される様子を示している。図 6 a に示されているように、半型同士を接触させた後、後半型に圧力が加えられると、前半型の円錐シーム 112 の下部を、図 6 b に示されているように上方に歪めることになる。後半型に圧力が加え続けられると、後半型の円周縁 120 が、前半型内に押し込まれる。